

「歳入確保ワーキング・グループ」及び「歳出改革ワーキング・グループ」の検討状況等について

平成28年5月17日
ワーキング・グループ事務局
(総務部財政課)

1. ワーキング・グループについて

(1) ワーキング・グループ（以下「WG」という。）の設置

平成28年4月22日に、「歳入確保WG」と「歳出改革WG」を設置し、それぞれ庁内から募集した課長補佐級及び主査級の実務者で構成しています。

- ・歳入確保WG：メンバー9名、オブザーバー1名
- ・歳出改革WG：メンバー10名

(2) 今後の検討スケジュール（予定）

以下のスケジュールで検討を進めていきます。

- ・5月11日 第2回WGを開催
 - ※以降、月2回程度のペースで開催予定
 - ※WGの検討状況については、適時、行革本部員会議に報告
- ・7月上旬 中間とりまとめの報告
- ・9月上旬 最終とりまとめの報告
- ・10月上旬 経営方針（案）、予算調製方針の公表

2. WGの検討状況

(1) 第1回WG（2ワーキング合同開催）

議題 「三重県財政の現状と課題について」

《事務局の説明概要》

三重県財政の現状と課題について、既存資料を用いて説明

《メンバーからの主な意見》

議論は第2回WGに持ち越し。

(2) 第2回WG

ア 歳入確保WG

i) 議題1「第1回会議の振り返り及びディスカッション」

《メンバーからの主な意見》

- ◆ 行財政改革取組は一定の成果が出ているが、さらに踏み込んだ議論が必要ではないか。
- ◆ 企業版ふるさと納税は積極的に活用すべき。
- ◆ 全国の取組状況をみると、法定外税、超過課税を新たに実施することは難しいのではないか

- ◆ 税外未収金対策は一定のスキームが確立されており、これ以上の踏み込む余地はないのではないか。

ii) 議題 2 「三重県財政の現状に対する課題認識」

《事務局の説明概要》

- ◆ 歳入においては、県税収入の確保、県有財産の利活用、多様な財源確保、県債の発行抑制について検討を進める必要があるのではないか。

《メンバーからの主な意見》

- ◆ 歳出において厳しい見直しが必要となるのなら、歳入においても一定の議論は求められる。

iii) 議題 3 「県債償還期限の見直し」

《事務局の説明概要》

- ◆ 今後、H34 まで公債費が増加していく見込み。
- ◆ 公債費負担の抑制策として、償還期間を延ばすことで単年度の元利償還負担を圧縮することを検討する必要があるのではないか。

《メンバーからの主な意見》

- ◆ 積極的に見直しを進めていくべき。

iv) 議題 4 「その他」

《メンバーからの主な意見》

- ◆ 既に一定議論されているが、経常的な財源である使用料・手数料の見直しは検討すべきではないか。

イ 歳出改革WG

i) 議題 1 「第 1 回会議の振り返り及びディスカッション」

《メンバーからの主な意見》

- ◆ 財政が厳しいということは、これまでずっと言われてきているが、毎年予算が組めているために危機感が伝わりにくいのではないか。

⇒ 近年は、土地開発基金や国の元気交付金、あるいは住宅供給公社清算金といった臨時財源があつて何とか予算が組めたが、平成 28 年度は、こういった臨時財源がなくなり、企業庁からの借入という異例の手段を取らざるを得なくなった。こうしたことを丁寧に訴えていけば、いよいよ厳しいということが以前よりも理解してもらえるのではないか。

- ◆ このまま何も対策をとらなければどうなるのか。

⇒ 平成 29 年度以降の決算で赤字になる可能性がある。その影響として、実質赤字比率が 2.5%、金額で言うと赤字額が 105 億円を超える場合、起債の協議制が許可制に移行する。比率が 3.75%、赤字額が 157 億円を超える場合は、財政健全化法の適用により「財政健全化団体」に移行し、財政健全化計画の策定義務が生じるなど、国の関与を受けることになる。さらに、比率が 5%、赤字額が 209 億円を超える場合、「財政再生団体」に移行することとなり、国の強い関与のもと、自主的な財政運営が難しくなる。

- ◆ 財政状況がここまで厳しくなったのは、三重県固有の原因によるものなのか、他県にも共通する原因なのかどうかなど、各経費について、しっかりと分析をすべきである。
- ◆ このワーキングでは、財政がどういう状態になればよいのかという目指すべき姿を明確にすべきである。

ii) 議題2「公債費・投資的経費について（1回目）」

《事務局の説明概要》

- ◆ 公債費が今後の県債の償還ピーク（H34頃）に向けて増加する見込みの中で、公債費負担をいかに減らしていくかが財政運営上の大きな課題。
- ◆ そのためには、県債発行そのものを抑制する必要がある。
- ◆ 施設の老朽化に伴い、補修・更新経費の増加が見込まれており、そうした分野に財源を振り向けざるを得ない。このため、既存インフラの長寿命化を図るとともに、今後の投資にあたっては、厳しく優先度をつけ、真に必要なものに絞らざるを得ないのではないか。
- ◆ 公債費負担の抑制策として、償還期間を延ばすことで単年度の元金償還負担を圧縮することも検討する必要があるのではないか。

《メンバーからの主な意見》

議論は第3回WGに持ち越し

iii) 議題3「各メンバーの独自提案にかかる検討について」

各メンバーから出された提案をもとに、第3回WG以降で検討することとする。

3. 三重県財政の現状と課題認識について

資料2-2のとおり